

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要					
建物名称	(仮称)江南区福祉総合センター				
建設地	江南区 泉町3丁目地内				
用途地域	無指定				
建物用途	集会所				
竣工年	2014年12月 予定				
敷地面積	4,625.21 m <sup>2</sup>				
建築面積	1,824.04 m <sup>2</sup>				
延床面積	2,748.45 m <sup>2</sup>				
階数	地上2F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2013年9月10日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{68}{26} = 2.6$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.5		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.5
			更新性	Q2.3.3	3.1
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.6		耐震・免震	Q2.2.1	3.8
			信頼性	Q2.2.4	3.4
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.3		建物の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.7		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	5.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 3.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 4.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	5.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
1. 長寿命化の取組み : ユニバーサルデザインに配慮した施設計画を行っている他、ゆとりある階高を設定し、1階床下にはピットを設け設備の更新性、維持管理に配慮した。 2. 地震への取組み : 耐震安全性の分類を構造体Ⅱ類 重要度係数I=1.25を採用している。 3. 大雨へ取組み : 駐車場は透水性舗装とし、可能な限りの植栽帯を設け、雨水流出抑制に配慮している。 4. 自然エネルギーの取組み : 太陽光発電を設置し、開口部を複層LOW-Eガラスとし、南側開口部には深い庇を計画している。 5. 資源循環の取組み : 節水型器具を採用し、構造材と仕上材の分別可能な計画する。 6. 水と緑を活かす取組み : 既存樹木を移植し、地域の郷土種の保全に配慮した計画とする。 7. 新潟のまちなみへの取組み : 屋根付き歩廊に囲まれた芝広場を計画し建物内外を連関させる豊かな中間領域を形成している。					

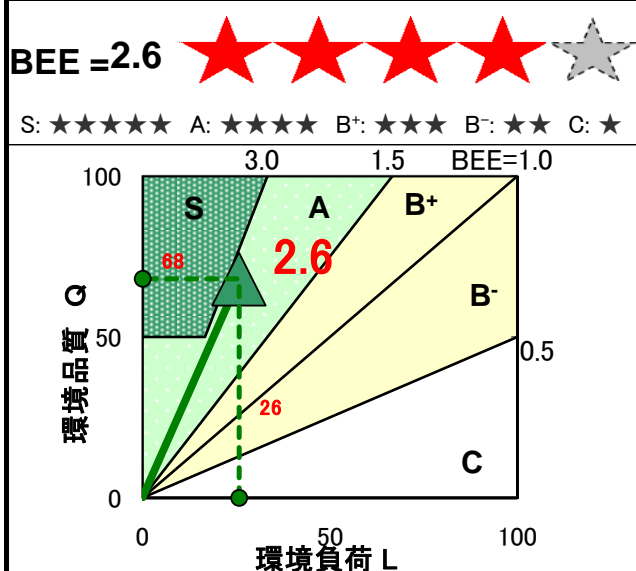
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE®新潟

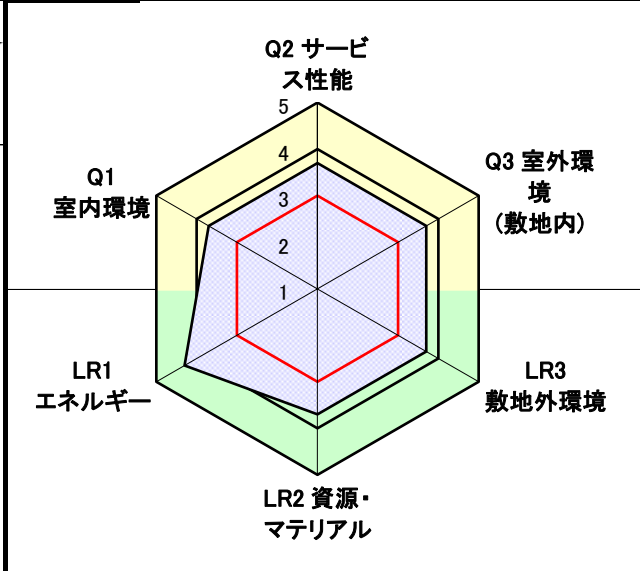
# 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

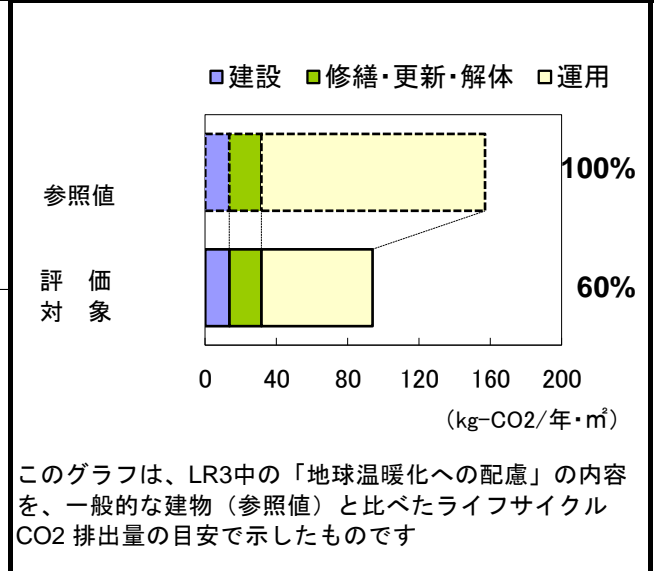
## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



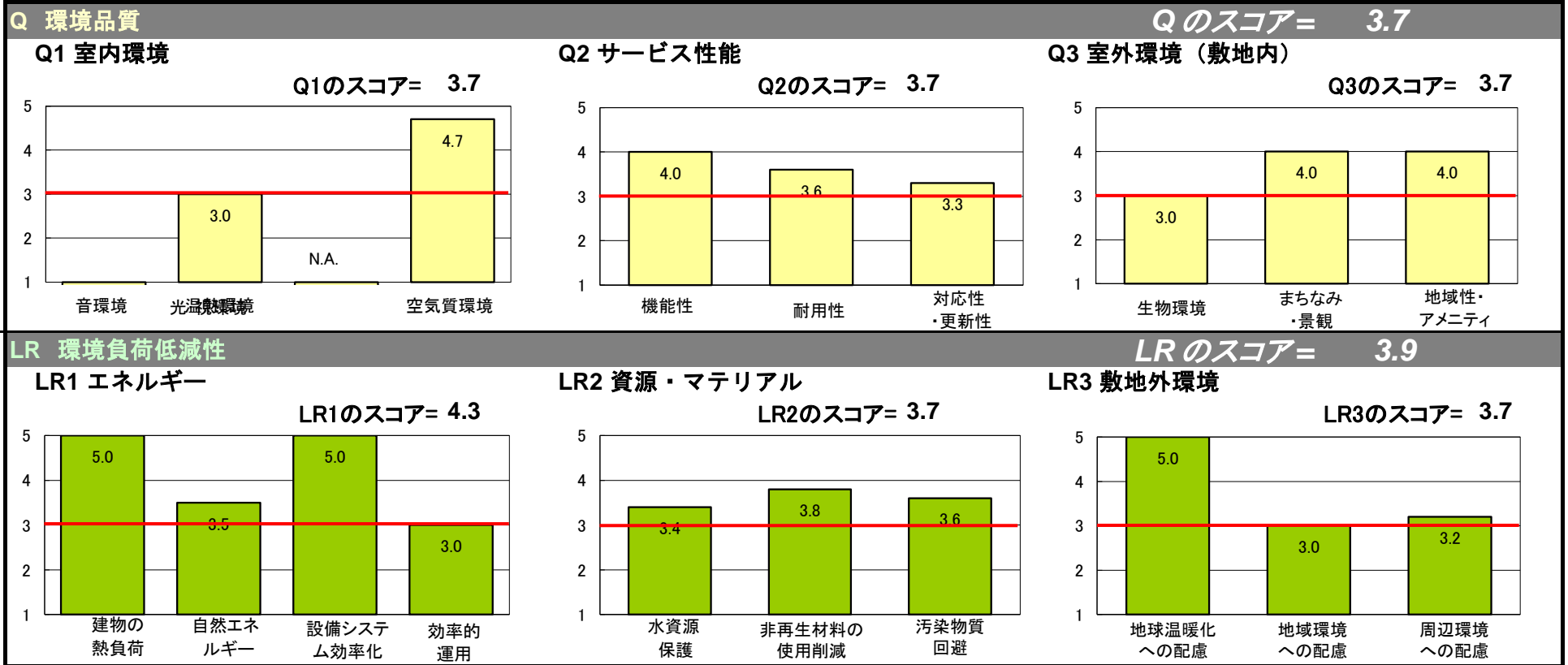
## 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



## 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)



## 2-5 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 大人から子供まで、障害があってもなくても利用でき、誰もが利用しやすく、気軽に立ち寄れる、施設のユニバーサルデザインに配慮した計画とする。	<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆☆建材及びVOC放散量の少ない材料をほぼ全面的に採用し、換気量も建築基準法の1.2倍を確保した。	<b>Q2 サービス性能</b> 重要度係数1.25として耐震性を確保した。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電を設置し自然エネルギー利用を行い、開口部に庇、複層LOW-Eガラスを採用し熱負荷抑制を図る。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型器具の採用により節水を図り、非構造部材にリサイクル材を一部採用する。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 地域に開放できる中庭(芝広場)を設け、中間領域の形成を図った。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 地球温暖化対策のため、ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を75%以下に抑える計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される